

理想的な学生カルテとは？

4グループ

学生カルテの定義

- 教職員側からの情報構築
- 学生は原則アクセス出来ない
- 指導のためのツール

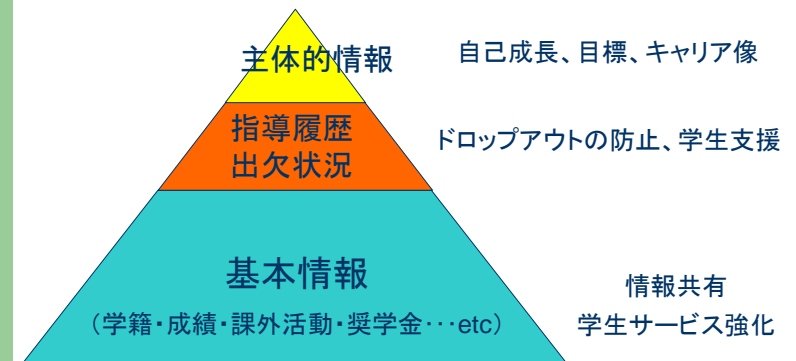
⇒ 学習ポートフォリオにつなげる
土台づくり

学生カルテの目的

- ① 教職員の情報共有
- ② 学生のドロップアウト防止
- ③ 自立、自己成長を促す

学生カルテの理想像

⇒ 学習ポートフォリオにつながる



理想の学生カルテ(具体案)

- 表彰など学生個人の自信につながる情報を共有する。職員全員で名前を呼び対象学生を褒める。(モチベーションの向上)
- 学生情報を共有することで保護者または就職先に安心感、信頼感を与えられる。
- 相談等により得た情報を分析し、今後の授業カリキュラムなどへも反映させる。
- 学生カルテに記載された情報から見られる共通点などを分析し、学生の特性を把握する。
- 学生からの質問事項をデータベース化し、統計分析することで、授業改善や職員教育の材料とする。
- 保健室が一番多く悩みの情報を得ていると思うため、これをデータベース化することでよい学生カルテができる。
- 学生自身が情報を付け加えていく。
学生が主体的に目標を設定し、教職員が達成に向けてサポートする。
- 「生き方」を身につける。学ぶために役立つ情報を積み上げ、指導に役立てる。

課題と課題解決方法

課題

- 教職員の積極的利用啓発(学生カルテを導入するだけでは変わらない。カルテを指導に活用して初めて効果がある。)
- 情報のセキュリティ(情報管理、アクセス権限)
- 学生の信頼を損なわない配慮(相談者以外にも情報が共有されてしまう。→本音を話さなくなるのでは…?)

課題解決のためには…

- 情報活用に対する教職員間でのコンセンサス形成・意識改革が重要
- システム導入ありきではなく、ポリシーやマニュアル作成が大切
- 小さく始めて大きく育てる(部署や学部限定での試行で成功事例を作る)

我々が今後行うべきこと

- 自分の大学の特性や状況、問題点などを把握し各大学の事例を参考にする。
- この研修会で自分の大学について質問され、回答できていない点のピックアップ。
(情報共有できていない点を挙げる)
- この研修会で得た情報を大いに活用することが問題解決の原点。